

16 生産目標

- (1) 若木（樹齢5年生以降）の段階から、一定の収量を見込むものとし、以後、成木（樹齢10年生以降）にかけ、右肩上がりに収量が増加すると考えられる（表-19、図-153～158 参照）。
- (2) 成木（樹齢10年生以降）段階における収量目標は、「岡山1号」では200kg/10a、「岡山3号」では150kg/10aとする（表-19、図-155～156 参照）。
- (3) 「岡山1号」、「岡山3号」では、樹齢6～7年生から、それぞれ200kg/10a、150/10aの収量を期待できる（図-157～158 参照）。
- (4) 「岡山1号」は結実量が増加すると、果実が小さくなるのに対し、「岡山3号」は結実量の多寡に関係なく、果実の大きさはほとんどかわらない（図-159～160 参照）。
- (5) 果実サイズは、「岡山1号」では、一部、若木段階で、せん定を実施することにより、一果当たり平均15g以上となる場合もあるが、樹齢5年生以降、ほぼ平均12g/果程度である（図-161～162 参照）。
- (6) 成木以降、樹齢40年生まで適正な管理を行っていけば、上記（2）の収量を維持できると考えられる（図-163～166 参照）。



図-153 県森林研究所内の実証園1
(左：樹齢10年生 右：樹齢15年生)



図-154 県森林研究所内の実証園2
(左：樹齢9年生 右：樹齢14年生)

表-19 年度別結実量の推移

| 植栽地 | 品種 | 植栽年月 (年.月) | 調査年度別結実量 (kg/10a) | | | | | | | | | | | |
|------|------|---------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 |
| 勝央町1 | 岡山1号 | 2005.4 | 68.7 | 201.8 | 182.8 | 220.7 | 234.7 | 272.8 | 335.8 | 256.0 | 288.1 | 344.2 | 330.3 | 339.4 |
| 勝央町2 | 岡山1号 | 2006.4 | | 22.3 | 92.0 | 269.3 | 211.2 | 142.7 | 362.0 | 224.3 | 329.7 | 296.2 | 203.4 | 139.7 |
| | 岡山3号 | 2006.4 | | 8.3 | 61.0 | 172.9 | 153.0 | 59.8 | 230.2 | 179.1 | 51.3 | 182.4 | 108.4 | 197.6 |

注1. 県森林研究所内実証園データによる

2. 実証園(勝央町2)については2018年度冬季に、岡山1号個体について50%間伐

出典：西山 (2018)

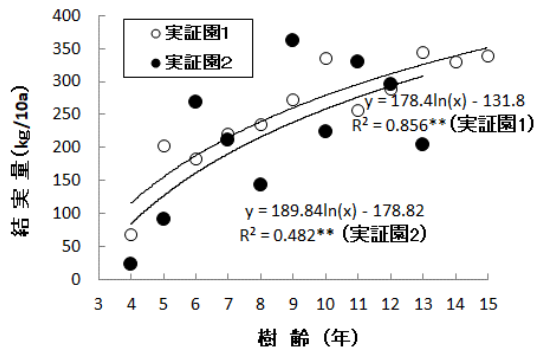


図-155 岡山1号の樹齢別結実量の推移

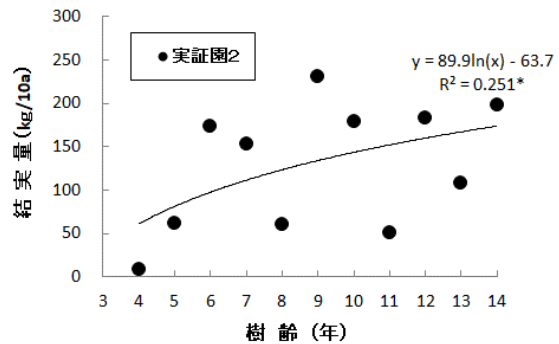


図-156 岡山3号の樹齢別結実量の推移

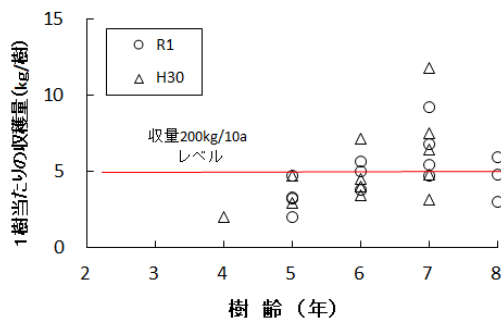


図-157 岡山1号収穫量の推移 (生産者別)

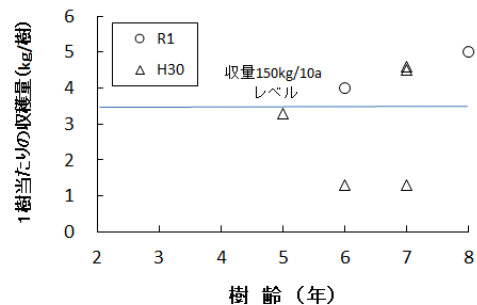


図-158 岡山3号収穫量の推移 (生産者別)

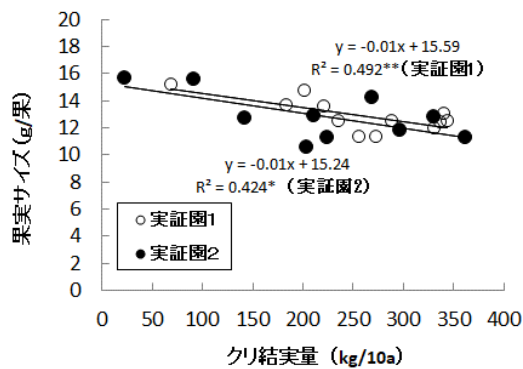


図-159 岡山1号の結実量と果実サイズの関係

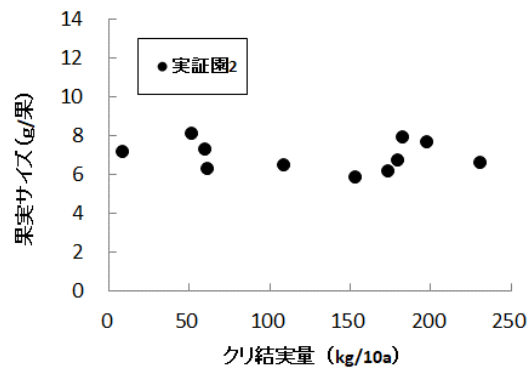


図-160 岡山3号の結実量と果実サイズの関係

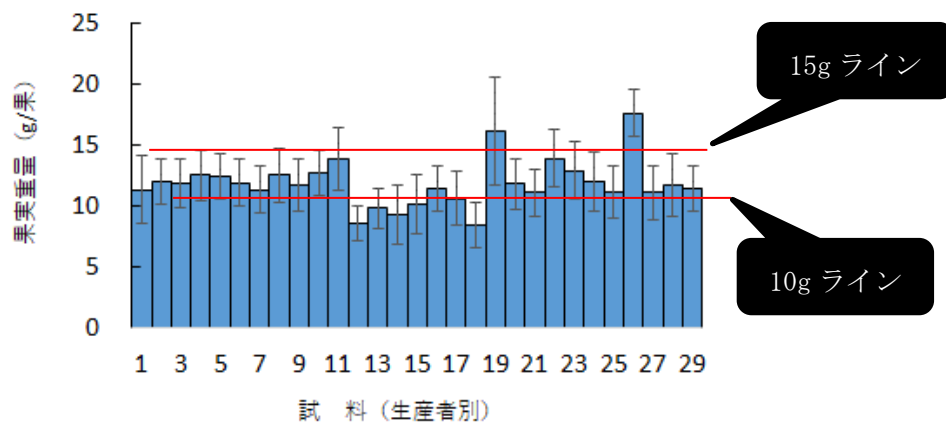


図-161 試料別果実重量(2019年度調査)

注. 樹齢5~8年生

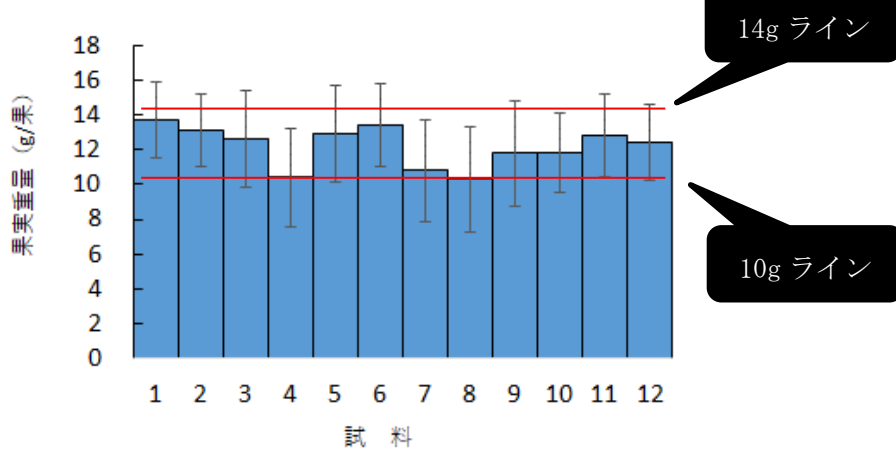


図-162 試料別果実重量(県森林研究所内)

注. 樹齢13~15年生



図-163 樹齢 33 年生の岡山 1 号
母樹（県森林研究所内）



図-164 樹齢 33 年生の岡山 3 号
母樹（県森林研究所内）

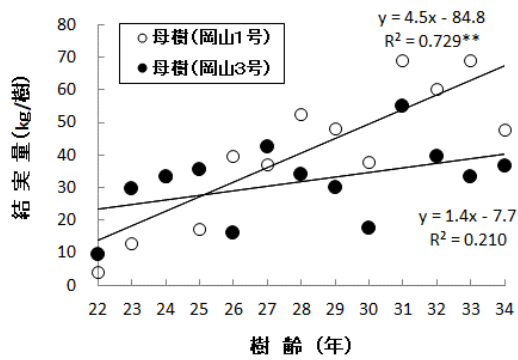


図-165 母樹における樹齢別結実量の推移

注: 母樹は実生育成によるものである

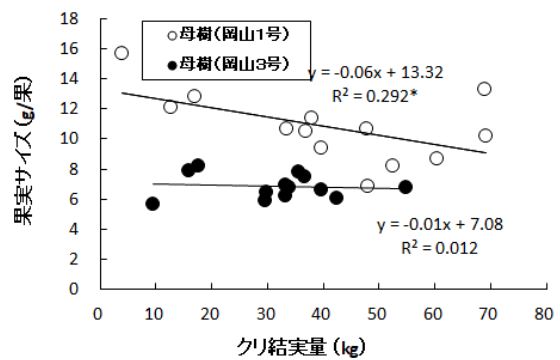


図-166 母樹における結実量と果実サイズの関係

出典：西山（2018）